



第一章 苦しむ一切の人々へ

永遠をおもう時、淋しさを感ずる

永遠をおもう時、悲哀を感ずる

永遠をおもう時、ひとりを感じずる

永遠をおもう時、魂の躍動を感ずる

永遠をおもう時、一道の光を感ずる

一 人生の行路

あなたは嫌きらな問題の少しも起おこらないところを求めている。無理もない。しかし、静かに私の言うことを聞いてくれ。

人間の生きているところには、どこにでも、必ず問題が起きる。好きな問題が起きる限り、嫌な問題も必ず起きる。もしあなたが、嫌な問題の少しも起おこらないところを求めらるならば、それは人の一人もない国にゆく外はない。

嫌な問題が、あまりに多く降りかかると、人間は疲れる。

あなたは今、疲れに疲れて、重い重い足どりで、トボトボとみじめな歩みを続けている。

出来ることなら、側からそつと替わってやりたいとさえ思う。しかし、待て、小さい慈悲を起おこしてはならない。歩きながら一緒に語ろう。

見てくれ、私もあなたよりも、もっと重い荷物を持っているのだから。

日は西の山に傾いて来た。おい、泣いているのか。淋しいに違いない。だが涙では何も解決しない。